

(暫定訳)

第6回アフリカ開発会議 (TICAD VI) サミットにおけるオスマン・サレー・モハメッド エリトリア外務大臣による声明
ナイロビ、ケニア，2016年8月27-28日

ケニア共和国大統領ウフル・ケニヤッタ閣下
チャド共和国大統領イドリス・デビ閣下
日本国首相安倍晋三閣下

1993年からエリトリアは、教育、医療、インフラ、農業、漁業の開発計画を対象にしたアフリカ開発会議 (TICAD) 協力を通して恩恵を受けてきた。ゆえに、何よりもまずこの機会に、この23年間の国家建設における困難な任務や課題への我々の自助努力に対する日本の多大なる貢献に感謝の意を表したい。

次に、冷戦終結以降未だかつてないほど、テロ、戦争、紛争、大国間の軍事的緊張は日ごとに高まり、世界中、特に我々の地域アフリカにおいて、平和と安定を脅かしている。世界の安定はまったく「いつもどおりの」状況ではない。経済危機、エネルギーや気候変動による危機、地域の騒乱、対立、エボラのような新たな健康への脅威やそれらの波及効果は、驚くべき速度と密度をもって増大している。人道的状況や人々の移住も、第二次世界大戦以降見られなかった空前のレベルにまで悪化している。世界の安全と安定は日ごとに複雑化している。

国連はこれらの課題に立ち向かうために不可欠な仕事を提供できるだけの重要な能力を備えているだろうか。アフリカ連合の平和安全構築はこれらの課題に立ち向かうため、建設的に国連とかかわり合っているだろうか。日本とアフリカは、真摯に向き合い、これらの重大な問題に関して率直に意見交換をしているだろうか。

人類史の中の今日という時点で、我々がこの質問にたとえどのように答えよう

とも、日本とアフリカが、国際的な法の支配について責任をもって取り組むと決意し、自身の義務と責務を再確認し、国連における歴史的、合法的で正当な役割に取り組むという相互の善意を表すことによって握手をすることは、不可欠かつ喫緊である。エリトリアは、アフリカと日本が国連改革というタイムリーな課題に積極的かつ率直に関わらなければならないと考えている。今こそ、我々相互の道筋を前向きに定義し直すことが重要である。

三番目に、2016年にケニアのナイロビで開かれている TICAD IV サミットは、1993年から TICAD プロセスを通して実施されてきた我々の大陸と我々の国々に対する日本の国際開発援助（ODA）の方針と実施に関して、新しいアプローチ、すなわち量的質的变化を表している。

周知の通り、我々の大陸は現在、伝統的な援助とは対照的な投資の時代に入った。エリトリアが相互の発展と我々の豊富な天然資源および人的資源の活用に対する日本からの外国直接投資(FDI)を再び歓迎するのは、この TICAD の成熟という背景があつてのことである。エリトリアはこの質的变化の重要性と、平和、安定、繁栄、我々の地域の協力と統合の責務においてこの質的变化が果たせる貢献を理解している。したがって、エリトリアは、これらパートナーシップ・プログラムの相互の成功のために、すべての共催者、日本の公的・私的セクターとともに引き続き協力して行くことを約束する。

ケニアの温かい歓迎ともてなしに感謝する。